（原潜解体作業）

一方、原子炉区画は、別途保管、発生した液体放射性廃棄物については「すずらん」で処理され、浄化された水は海に放出された。

（放射性廃棄物処理船「すずらん」）

「すずらん」とは、放射性廃棄物処理船として建造され、原潜解体事業に従事していた。

「希望の星」プロジェクトの推進に必要な施設として、日本のトーメン社とアメリカ・B&W 社が協同で開発、設計した放射性破棄処理施設をロシア・コムソモルスクにあるナ・アムール造船所で日本側の指導で建造した処理施設船で、建造費は当初 25 億円と見積もられたが、最終的には 30 億円となり、全額日本側が負担した。

施設の規模

長さ 65 m、幅 23.4m、　喫水（最大）3.5m　　ただし、自走能力はない艀（はしけ）、船の大きさに換算すると　約　5000 トンになる。

処理能力

① 最大取り扱い放射能濃度・低レベル液体放射性廃棄物、3.7 × 10 の 5 乗 Bq/l。

② 放出液体放射性廃棄物処理能力：約 7000 立方m／年

「すずらん」を福島第一原発事故の汚染水の処理に使えないのか、日本政府の動きは鈍い。

この原潜解体事業に日本及びアメリカが積極的に協力したのは、勿論海洋汚染を未然に防ぐという目的があったが、もう一つ　係留されている原潜から核物質盗難未遂事件があ